## 「クラスメイト」を読んで

五年生

（子）

わたしはこの話を読んで、なぜこのことだけで親友じゃないと思ったのはおかしいと思いました。なぜならケンカをしたわけじゃないし、がんばって手に入れたカイコを手放したくなかっただけでなるのはおかしいと思います。

　カイコを平等に分けなかったのもおかしいと思います。みんなは大きいのをえらんで自分だけ小さいのはいけないので平等に分ければよかったと思います。

（親）

物語の主人公が自分の親友だと思っていた友だちから小さいカイコばかり届けられた事をきっかけに、ショックを受け本当に自分の親友だろうかと悩む物語でした。

　大人になって思い返してみると、子どもの頃は友達とのことで毎日色々な出来事があり、考えたり悩んだりした事を思い出します。大人になるにつれて相手の気持ちをより考えて受け入れる事ができるようになったと思います。世界では色々な出来事が起こっていますが、相手の立場を考える事が国と国の関係も同じで平和につながるのにと、もどかしい気持ちがします。

## 「カンニング」を読んで

五年生

（子）

試験の前の日、試験の問題が置かれていたところに犯人が入り、問題を写した。シャーロック・ホームズがこの事けんの犯人を見事に見つけ出すというお話だ。問題の紙が見られるようになっていたとしたら、私はまずそのところに行かないと思う。それに実力じゃないのに、試験に合格しても困るだけだと思う。シャーロック・ホームズが一つ一つ事けんを解決して、試験が始まる前に終わったからすごいと思った。

（親）

大学の奨学金試験の問題用紙が何者かによって書き写された事件をシャーロック・ホームズが解明していくお話です。カンニングをしてしまったギルクリストに学校の召使いであるバニスターやシャーロック・ホームズは彼を攻めるのではなく、カンニングしてしまった彼を誤った道から正しい道に引き戻し、彼の将来を後押ししました。

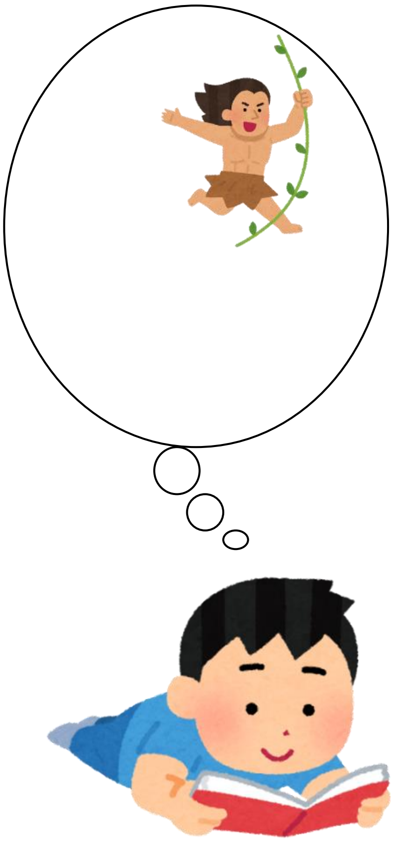
　この本は、推理小説ですが、心温まるお話でした。

# 「ジャングル・ブック」

五年生

(子)
私は長井るり子さんの「ジャングル・ブック」という本を選びました。なぜかというと、動物が出てくるからです。
主人公は、こわれたふねの中のかごに入れられたモーグリです。この物語はシア・カーンというトラに追われながら、ジャングルで生活し、人間の村に帰るという物語です。私が心に残った場面は、モーグリとヒョウのバギールがけんかをしてしまいます。でも、モーグリがさらわれた時、バギールが助けようとします。そこが心に残りました、私はそんな勇気はないかもしれないからです。
でも、私はこれからは勇気をもって戦えるようになりたいです。

(親)
人間の子どもとジャングルに住むさまざまな動物達、姿形は違えど愛情をもって子どもに接する動物達の姿が印象的でした。心のすれ違いはあれど最後はよりよい子どもの未来を考え、行動する動物達に感動しました。



# 「クラスメイト森本えみちゃん」

五年生

(子)
私は、「クラスメイト森本えみちゃん」という本を読みました。
この本を読んで、友達って大事だなぁと思いました。理由は、主人公の女の子が指を切ってカイコを選べなかったから、親友の森本えみちゃんがカイコを選んでくれたけど、渡されたカイコが小さくて「親友じゃなかったんだ…。」と主人公の女の子は思っていたけど「本当はカイコの組合わせを考えてくれていたかもしれない。」と主人公の女の子が思っていたからです。
私は、もしこれから友達にいやな事をされたり言われたりしたら、「もう友達じゃない。」と思わずに、どうしてこんなことをされたのか、言われたのか考えていきたいです。

(親)
この本は主人公の女の子を小学生だった自分にあてはめながら読んでみました。
自分だったらこういう時はどうするだろうと思いました。自分も好きな物を親友に渡す時、がまんして自分よりいい物を選ぶのか、それとも親友に悪いなぁと思いながら自分がいい物を選ぶのか…。
親友だからこそ悩むことなんだと思います。
学生の頃からの親友は、大人になった今でも親友です。
娘にも、今仲の良いお友達を大切にしていってほしいと感じました。

## 「カンニング」を読んで

五年生

　私は「カンニング」という本を読みました。
　この「カンニング」という本はたんていが事件をかいけつするためにすい理をくり広げていくお話です。
　この物語は、はん人像が二転三転して、最後までドキドキして読むことができました。
　また、この本ははん人のすい理をするだけでなく、はん人がおかしたつみをこうかいしてなやむところも表現されていました。
　父が面白いと言っていたのは、それぞれのようぎ者の説明のところでおかしな書き方があると思っていたが、実は最後にはん人とそのはん人をかばったしつじの関係を結びつける「ふくせん」だったとのことです。
　私の予想していたはん人と父が予想していたはん人がちがったので人それぞれすいりのしかたがちがうのだなと思いました。

## 「見えなくなったクロ」を読んで

五年生

　不思議なお話でした。結局は一郎の空想の中の話ではあったのだけれど、この不思議な出来事は一郎の心の中で良くないと思いながらもしていた、自分の行動への反省だったのかと思います。
　ぼくは勇気がないからか、悪いと思う事はできないタイプですが、悪い事と分かってやってしまったりしたら、ずっとその事がばれるかもと気になってヒヤヒヤして過ごすことになると思います。でも、格好つけたかったり、良く見られたかったりという思いから、一郎と同じように行動してしまう気持ちもわかるような気がしました。
　この不思議な出来事があって、一郎も自分の行いを見直すことができて、これからはきっとずるをせずに自分の力でのりこえていかなければばらないと感じたと思います。ぼくもこの本のおかげで、うそやずるをしてやりすごしても、自分のためにはならないんだという事を学びました。